

番組作りの土台に文武両道の生活



山形東は「最初に愛校心が植え付けられる学校です」と田中萌さん

校訓に文武両道を掲げる山形東高校では、多くの生徒が勉強だけでなく部活動にも力を注ぐ。

テレビ朝日アナウンサーの田中萌さん(25、2010年卒)は、長い歴史を持つ応援団の中へきたチアリーダーの10代目。ほとんどの運動部の応援に向いた。

きっかけは入学間もない時期にあった応援の猛特訓。体育館に1年生が集められ、竹刀を持つ応援団長の指導の下、校歌や応援歌などを練習した。何日目かの練習に、2、3年生も加わると、1年生だけとはまったく違うものに。「応援って、こんなに盛り上がるんだ」。応援をリードするチアリーダーのかっこよさにも魅せられた。アナウンサーという仕

事は、3年生のときの担任の先生に勧められた。最初は「なれるわけない」と思ったが、小学校の運動会の司会が楽しかったことや、教科書の音読が好きだった記憶がよみがえってきた。

明治大学政治経済学部に進学すると、1年生のときからアナウンサーの養成学校に通ったり、テレビ局でアルバイトをしたりした。15年にテレビ朝日に入社。その年の秋から、朝の情報番組「グッド!モーニング」に出演している。午前1時半に起床して準備。まだ仕事を楽しい余裕はないが、「他の人の発言に、自分の言葉でうまく反応できるようにになりたい」。

軟式テニスに青春を捧げたのは、NHKエンタープライズ執行役員で自然科学番組を統括する佐々木元さん(55、1980年卒)。高校生活の締めくくりとなるインターハイの県予選まで約1カ

月という時期に、自転車通学中に右折車にはねられ、頭を強打した。奇跡的に大けがにはならなかったが、練習再開は予選の1週間前。明らかに練習不足だった。暗い高校生活ですよ。インターハイに出ていけば全然違っていたでしょうけど」

1浪して慶応大学文学部へ進学。教員になって山形に帰ろう」と思っていたが、薬書の一つ、サリドマイド被害者の女の子を追ったドキュメンタリー番組に感動したこともあり、NHKに就職した。

主に自然番組の制作を担当してきた。2002年11月から1年4カ月間、南極に滞在。体感温度はマイナス80度になることも。まっげが凍ってしまい、カメラ撮影の邪魔になるので抜いたこともあった。また、深海の超巨大イカ、ダイオウイカの撮影に世界で初めて成功したNHKスペシャル(13年)には、チーフ・プロデューサーとして関わったが、「実は、撮影できなかったときにどうするかということがばかりを考えていた」。

番組作りは「99%くらい大変なことばかり」という。「編集を終えて番組ができた瞬間と、それが放送された瞬間、この2回の満足のために苦労を繰り返しています」



山形の厳しい気候に鍛えられ、「世界中どこに行っても大丈夫」と佐々木元さん